

世界に目を向けよう！

氏名：小橋川 さやか

学校名： 沖縄県立八重山商工高等学校定時制課程

担当教科： 国語

実践教科： 国語総合

時間数： 4 時間

対象学年： 第1学年

人数： 26 人

【実施概要】

【1】 単元目標

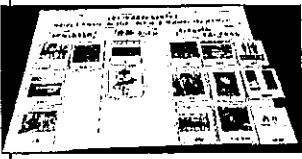
世界には文化や事情、価値観が自分たちと違う国があることを知る。

世界と自分たちがつながっている事を知り、一緒に生きていくために何ができるか考えることができる。

【2】 単元の評価 規準	(ア) 関心・意欲・態度	世界に関心をもっているか。積極的に取り組んでいるか
	(イ) 思考・判断・表現	自分ごととして考えることができているか
	(ウ) 技能	なし
	(エ) 知識・理解	世界と日本(沖縄)のつながり(関連)について理解できたか
【3】 単元設定の 理由	<p>(1) 生徒観 生徒は定時制課程の1年生である。小・中学校時代に不登校を経験している生徒も多く、基礎学力が身につけていない生徒が多い。また、集団行動の経験も少なく、他者と交流を持つことに不慣れである。そのためか、視野が狭く他者に興味をもつことができない生徒が多いように感じる。世界と沖縄がつながっていることから、自分たちが一人で生きているわけではないこと、生きていくためには他者を理解することや協力することが必要だということを、授業を通して少しでも感じてほしい。</p> <p>(2) 教材観 教材は教師海外研修で学んだ不発弾の課題である。「世界に目を向ける」というと、とても大きく、分かりにくいのが、自分たちの住んでいる環境と似たラオスの様子であれば、イメージもしやすいと考えた。また、沖縄もラオスと同じように、不発弾の撤去という課題を抱えているが、ラオスはその課題がさらに緊急性を持っている。生活の中で、不発弾事故にあう可能性がある恐怖、その課題に沖縄も関わっているということは、国際協力の必要性を考える上でも良い教材になるのではないかと考えた。</p> <p>(3) 指導観 今回の授業を行う前に、教科書(高等学校改訂版 新編国語総合(第一学習社))で、星野道夫のエッセイ「十六歳のとき」を学習している。筆者が単身でアメリカを旅し、そのとき「多様な価値観」に触れたことで、人生の岐路が変わったことを紹介していた。その</p>	

部分と関連させ、ラオスと沖縄（日本）の共通点を紹介し、世界に興味関心を持たせたい。また、ラオスの抱える課題と沖縄の歴史に関連性があることから、国際協力の必要性も感じさせたい。「考える」ということに対して苦手意識の強い生徒たちなので、空欄補充やイラストを使用し、少しでも自分ごととして捉えられるように工夫する。

【4】展開計画（全4時間）

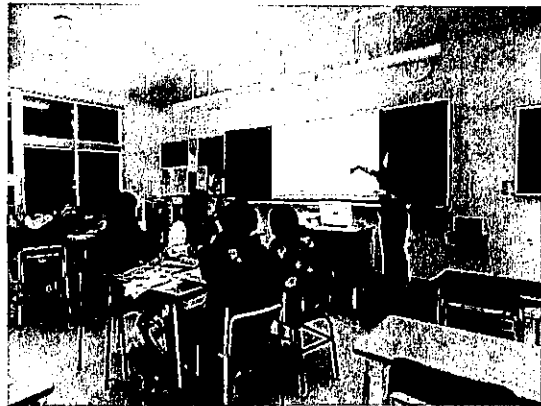
時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
1	<p>テーマ 沖縄とラオスの共通点知ろう</p> <p>ねらい 沖縄とラオスに共通してあるものを知ること、世界への関心を高め、次時へとつなげる。</p>	<p>①ラオスの位置を世界地図で確認する。</p> <p>②沖縄とラオスにある15枚のカードを、「沖縄にあるもの」「ラオスにあるもの」「沖縄とラオスに共通してあるもの」の3グループに分ける。（グループ活動）</p> <p>③分けたものを黒板で確認する。（一斉）</p> <p>④ワークをやってみての感想を共有する。</p>	<p>・現地の写真等</p> 
2 本時	<p>テーマ 不発弾の被害について知る</p> <p>ねらい ラオスでは不発弾の被害が現在も身近に起こっていることを知り、どうすれば解決できるかを考えさせる。</p>	<p>①不発弾をアートとして使っている建物を見せ、気づいたことを発表させる。</p> <p>②被害者名簿の写真を見て、気づいたことを発表させる。</p> <p>③不発弾の仕組みを、マンガを使用して説明する。</p> <p>④撤去には命の危険を伴うことを理解する。</p> <p>⑤どうしたら、不発弾による被害を減らすことができるか考えさせる。</p>	<p>・現地の写真</p> <p>・ふせん</p> <p>・石垣の不発弾撤去の記事</p> <p>・撤去作業のパフォーマンス動画・掘り出された不発弾の写真</p>
3	<p>テーマ 不発弾が多く残っている背景を理解する。</p> <p>ねらい ①ベトナム戦争と沖縄の関係を知る。 ②沖縄が戦争の被害者であると同時に加害者にもなっていることを知る。</p>	<p>①ベトナム戦争について知っていることを挙げる。</p> <p>②ベトナム戦争について知る。</p> <p>③ベトナム戦争がラオスに与えた影響を確認する。（思わぬところで自分達の生活が他国の歴史・生活と関わっていることを意識する。）</p> <p>④私達の生活が他の国の生活や歴史に影響を与えていることがないか考える。</p>	<p>・ワークシート</p> <p>・新聞紙を使った爆撃体験</p> <p>・リプトンのHP</p>
4	<p>テーマ 国際協力って何だろう？</p> <p>ねらい 自分たちが安全に暮らすためには、他国も平和・安全でないといけない事を知る。</p>	<p>①前回の復習（自分たちの生活と世界がつながっていることを振り返る）</p> <p>②国際協力とは何かを理解する。</p> <p>③国際協力の事例を挙げさせる。</p> <p>④日本や沖縄の行っている国際協力の紹介する。</p> <p>⑤「私ができる」国際協力は何かを考える。</p> <p>⑥振り返り</p>	<p>・ワークシート</p> <p>NHKの歳末助け合い募金のHP等を活用。</p> <p>・感情カード</p>

【5】本時の展開			
過程 時間	学習活動	指導上の留意点（支援）	資料（教材）
導入 (10分)	①キーホルダーとスプーンを提示し、この2つに隠されている秘密について考える。 ②不発弾を使った建造物を見せ、気づいたことを発表させる。 ③今日の目標を確認する	* 前回の学習で、ラオスと沖縄の共通点の一つに不発弾があったことを確認する。	・ 不発弾で作ったスプーン・キーホルダー ・ 現地の写真1 添付資料①②
展開 (30分)	④被害者名簿（サバイバーの名簿）の写真を見て、気づいたことを付箋に書き込み、発表する。 ⑤クラスター爆弾について学習する。 ⑥撤去には命の危険を伴うことを学習していく。 ⑦発問： 「どうしたら不発弾による被害を減らすことができるだろう？」 例 ○募金 ○作業員を増やす ○啓発活動をする	* グループ学習 * 子どもたちの被害が大きい事とその理由について考えさせる。 ※発表で出なければ・・・ Q1：被害が多いのは何歳くらいかな？ Q2：なぜ子ども被害者が多いのだろうか？ * 撤去作業のパフォーマンスの写真・動画を見せる。 * 個別活動 * なかなか書けない生徒には、マンガ等の資料をもう一度振り返らせる。 また、自分の家の近くにあったらどうするかを考えさせる。	・ 現地の写真2 添付資料③ ・ マンガ資料 ・ 現地の写真3 添付資料④⑤ ・ 石垣の不発弾撤去の新聞記事⑥ ・ 撤去作業のパフォーマンス動画 添付資料⑦⑧
まとめ (5分)	⑧初めて知ったこと、感想をまとめる。	* 感想を共有する。	

【授業実践の様子】



フォトランゲージの様子



ラオスの不発弾についての学習

【6】本時の振り返り

前回の学習で、ラオスと沖縄の共通点を紹介した。そのため、共通点の一つでもある「不発弾」についてはすぐに理解することができたようである。特に、現地の写真や不発弾処理の動画は、生徒の反応もよく、教師が語るよりもインパクトは強かったようだ。これらの教材を利用することで、不発弾の危険性が遠くなった沖縄とラオスの状況を比較し、「不発弾」がいかに大変な負の遺産なのかを感じさせることができたと思う。しかし、説明が多くなってしまったこと、広がりのある発問を設定できなかったことが反省点である。

【7】単元を通じた児童生徒の反応/変化

* 本時の感想

不発弾の処理は命がけであるのが大変で、
感じました。

ラオスにある不発弾をすべてなくするのに200年かかると聞いてびっくりしました。
不発弾による被害は、小さな子どもたちも被害に巻き込まれてしまっています。

日本は、沖縄には不発弾が大量にあり、とても危険な状態です。自身の身に不発弾を見つけては、
とても怖いと感じました。

* 沖縄にも不発弾があるが、今はほぼ安全に撤去されている。その状況とラオスの状況を比較し、ラオスの状況がいかに大変なものかを実感できている。

* 国際協力について学習した後の感想

平和な国との助け合いが必要だと思える。もしも自国が困窮しているときに、他国から助けを求めると、もしも自国が困窮しているときに、他国から助けを求めると、

今日の授業の振り返り
今日の授業を振り返り、国際協力は大切だと思いました。国際協力は、平和な世界を作ります。国際協力は、平和な世界を作ります。

77がニスタの戦争とかがしている国は、戦争とかがとても大変な国だから、
薬品を運んであげてほしいと思います。

【単元を通し変容した生徒の態度や学習意欲があれば記載下さい】	
<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な行動の変容は見られなかった。しかし、「ラオスの話しないの？」という発言や、他国に関するニュースを授業などで話す時、聞く様子が見られるようになった。 ・ラオスで携帯電話の普及やフリーWi-Fiの話をしたことで、「途上国」＝「貧しい？」と生徒の中に疑問が生まれたようである。 	
【途上国・異文化への意識の変容について記載下さい】	
(授業前)	
<ul style="list-style-type: none"> ・「自分には関係ない」という事を言ったり、書いたりする生徒が多い。 ・「世界」に関する興味が低い。 ・「途上国」＝「汚い・貧しい」というイメージがある。 	
(授業後)	
<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な行動の変容は見られなかった。しかし、「ラオスの話しないの？」という発言や、他国に関するニュースを授業などで話す時、聞く様子が見られるようになった。 ・「テレビでラオスについてやってたよ」という声が聞かれた。 	

【8】自己評価

(1) 苦勞した点	生徒が毎時間参加するわけではないので、その時間で理解できる展開、参加できる内容（1時間完結の内容）にすることが難しかった。また、考えることに強い苦手意識を持った生徒が多いので、理解を深めたり、学んだことを活かしてさらに発展させたりする教材にできなかったことが課題である。
(2) 改善点	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な知識がないので、発問を考えるための説明がどうしても多くなってしまった。他校で行う場合には、説明の部分を生徒自身に考えさせるような発問を考える必要がある。また、今回の発問はあまり広がりのない内容を設定してしましたが、「あなたなら、不発弾の被害者をどう支援するか」という発問であれば、その後の展開として、日本の被災者や生活支援を必要とする人達等にも視野が広げられたのではないかと。そうすれば、さらに様々な授業の展開が考えられたのではないかと。
(3) 成果が出た点	<ul style="list-style-type: none"> ・ラオスという国を知ってもらえたこと。 ・国同士にも目に見えないつながりがたくさんあることを示すことができた。 ・正直なところ、成果と呼べるものは出なかったと思う。一部の生徒には伝わったかもしれないが、多くの生徒にとっては「世界」は遠い場所の出来事で、世界の課題を見る前に、解決すべき自分自身の課題が多くある状況である。生徒に伝えたくて行った授業であり、やる意義もある内容だとは思いますが、受け入れる側の生徒の準備を整えきれなかったと感じている。

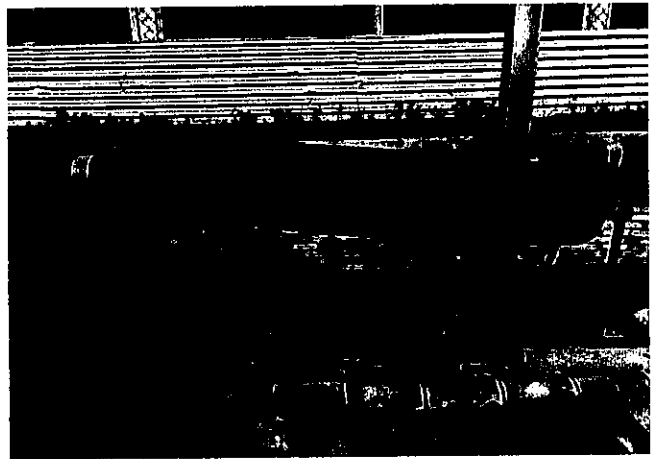
(4) 備考 (授業者による自由記述)

ラオスに研修に行くことで、より国際協力の意味や必要性を実感することができた。そして、自分が他国へ行き、様々なものを見て体験することで、生徒に伝えたいことも増えた。しかし、生徒の実態と照らし合わせると、なかなか思うように授業をつくることができず、自分の力不足を感じている。思うように内容を深めることはできなかったが、自分の住んでいる場所の外に視線を向けさせることはできたのではないと思う。もともと興味のない生徒たちに、いきなり関心を持たせることは難しいが、実際に授業をすることで関心を持つきっかけは作れたのではないかと考える。今回の授業では取り入れることができなかった、ラオスの状況や課題はミニワークや授業の導入などを通して、今後も生徒に還元していきたいと考えている。

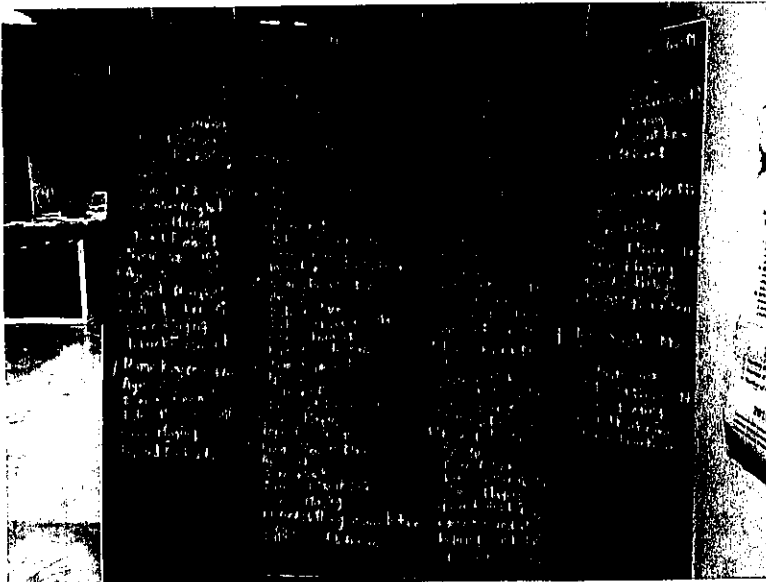
添付資料①② (本時でB 4に拡大コピーし使用)



①不発弾を利用したお店の装飾



②処理された不発弾



③不発弾で被害を受けた人の名簿

写真①②の補足説明

シェンクワンには、ベトナム戦争時の不発弾が多く残っています。

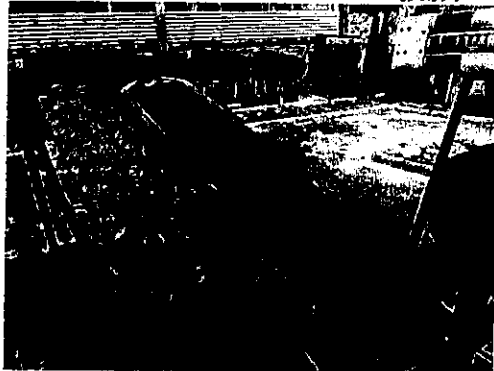
①は、安全に処理された不発弾の容器をお店の装飾として利用している写真。

②は UXOrao に展示されている掘り出された不発弾の一部です。

写真③の補足説明

名簿には、日付や名前、年齢、被害を受けた場所、被害の状況などが英語で書かれている。同じ日に複数の人が被害を受けていることが読み取れる。また、子ども被害が多い。

添付資料④⑤ (プロジェクターで投影)



④クラスター爆弾の内部



⑤土の上に露出した子爆弾

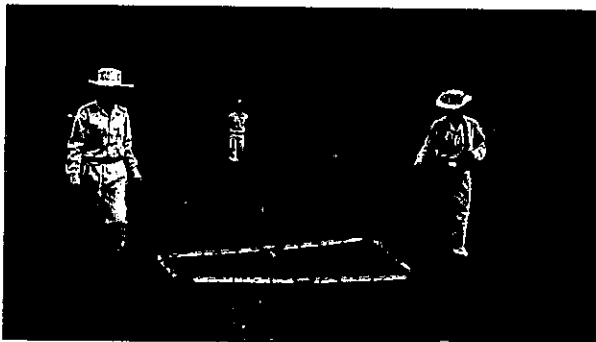
写真④の補足説明

クラスター爆弾は、親爆弾と呼ばれる外側の大きな容器の中に、子爆弾と呼ばれる小さな爆弾が沢山入れられている。親爆弾が爆撃機から打ち出されると、その中からたくさんの子爆弾がばらまかれ、広範囲に攻撃できるように作られている。

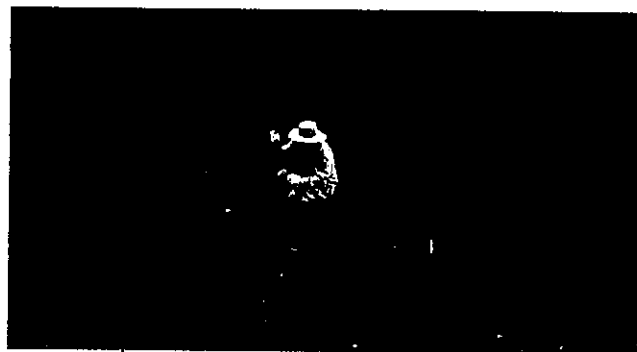
写真⑤の補足説明

クラスター爆弾の子爆弾は、設定された回転数、回転すると爆発するようになっている。いつ爆発するか分からない不安定な状態なので、クラスター爆弾が発見された場合には、その場で爆発することになっている。

添付資料⑦⑧ (授業で動画を流した)



⑦不発弾の場所を特定する様子



⑧不発弾を掘り出す様子

写真⑦⑧の補足説明

シェンクワンでは、研修・訓練を受けた市民が不発弾処理を担っている。

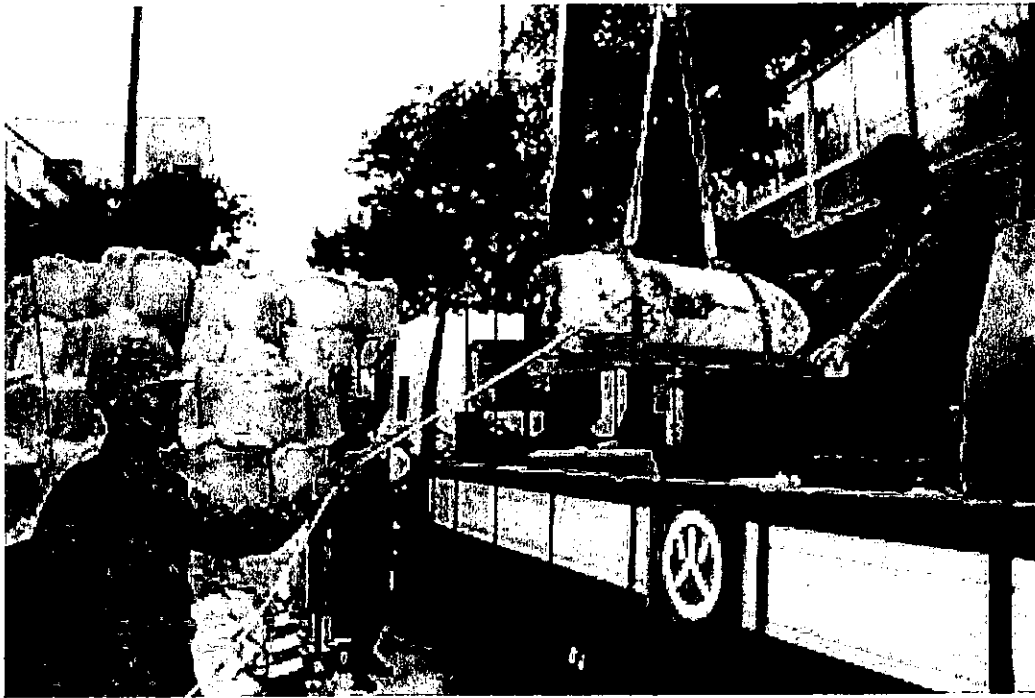
写真⑦は機械を使って、不発弾の場所を絞り込んでいく作業をしている画像。2人1組で、金属探知機を使用し、反応した部分に印を挿していく。次に写真⑧のようにさらに狭い範囲(10cm程度)で場所を絞り込み、少しずつ慎重に手作業で掘り出していく。

作業している人が軽装なのは、爆発が起きた場合、防弾チョッキ等を着ていても破片がそれを貫いてしまうため、あまり意味がないので作業服で行っているとのことだった。

この作業は、小学校の300m先で行われている状態だった。命がけの作業であるが、不発弾を撤去しなければその地域の安全も発展も望めない。携わる人たち全員が使命感を持って不発弾処理に取り組んでいた。

不発弾処理 2138 人避難 中心市街地で 29 年ぶり

2016 年 11 月 27 日(八重山毎日新聞) 地域・教育



不発弾処理隊によって安全化処理され、トラックに運び込まれる 250kg 爆弾=26 日午後 5 時半ごろ、タウンパル山田前のゆいロード

70 事業所、営業停止余儀なく

今月 4 日に石垣市大川 204 のタウンパル山田前のゆいロードで見つかった英国製 250kg 爆弾 1 発は 26 日、予定より 22 分遅れの午後 4 時 37 分から現地で信管離脱作業が行われ、同 5 時 20 分に完了した。作業開始後、避難対象区域内で進入者が確認されたため、一時中断した。中心市街地で不発弾が発見、処理されるのは、今回とほぼ同じ場所で行われた 1987 年 7 月 15 日以来 29 年ぶり。処理壕(ごう)や防護壁の強化で避難対象範囲は、当時の半径 400 ㍍から 283 ㍍に縮小されたものの、1246 世帯 2138 人が避難、70 力所の事業所が営業停止を余儀なくされ、およそ 3000 人以上の住民生活や経済活動に大きな影響が出た。

世界に目を向けよう! ②

年A組 番【 _____ 】

目標: ラオスの抱える (①不発弾) の問題を理解する。

メモ

☆どうしたら (① 不発弾) による被害を減らす事ができるだろう?
その中で私たちができることは何だろう?

[_____]

☆今日の授業で考えた事 (感じた事), 初めて知った事を書いて下さい。

[_____]

☆今日の授業で疑問に思った事があれば書いてみよう。

[_____]

参考資料：

- ・沖縄タイムス+プラスニュース 2016年11月7日、27日(<http://www.okinawatimes.co.jp/>)
- ・八重山毎日新聞(ホームページ)2016年11月27日(<http://www.y-mainichi.co.jp/>)
- ・『ラオスからのメッセージ』特定非営利活動法人「レネッサンス」
(* 不発弾のマンガ教材として使用) -77-
- ・JICAホームページ <https://www.jica.go.jp/>
- ・教科書『ジュニア版 琉球・沖縄史 沖縄をよく知るための歴史教科書』
沖縄歴史研究会 新城俊昭
- ・「知ってる？日本の食料事情 ～日本の食料自給率・食料自給力と食料安全保障～」農林水産省
<http://www.maff.go.jp/>
- ・日本紅茶協会 <http://www.tea-a.gr.jp/>
- ・午後の紅茶 <http://www.kirin.co.jp/>
- ・誰でもできる国際協力 <http://www.mofa.go.jp/>
- ・ラオスの不発弾(UXO)の現状と開発 www.uxo.la
* ラオスでいただいた日本語版の資料を利用
- ・2015(平成)27年度JICA沖縄教師海外研修実施報告書・授業実践集
- ・2016(平成)28年度JICA沖縄教師海外研修実施報告書・授業実践集